国立大学法人
宮城教育大学 附属図書館ニュース

ISSN 1348－1525

こもれび

KOMOREBI

MIYAGI UNIVERSITY OF
EDUCATION LIBRARY NEWS

No.134
2019.3.26 発行

特集 新聞 × 教育 ～新聞のすすめ～

CONTENTS

02 特集　新聞×教育 ～新聞のすすめ～
06 学生の読書室
08 子ムェの本棚
　　読みやすい教科書で学ぶための工夫
12 図書館インフォメーション

KOMO REBI

特集

FEATURE ARTICLES

新聞×教育
～新聞のすすめ～

平成30年12月5日および12月19日に、附属図書館スパイラル・セッション「新聞で何を学び、何を教えるか～伝えること、知ることの大切さ～」を開催しました。講師を務めてくださったのは、河北新報社防災・教育室長兼論説委員会委員の武田真一氏です。今回の特集では、このスパイラル・セッションを通して学んだことを大学院国語教育専修の学生たちが報告します。また、本学教授・児玉忠先生（国語科教育）からも、「新聞」の魅力についてのお話を伺いました。

武田真一氏
（河北新報社 防災・教育室長）

スパイラル・セッション
「新聞で何を学び、何を教えるか」に参加して学んだこと

01 NIE（Newspaper In Education）とは？

教育の場に求められている「新聞」について理解を深めるために、私たちはスパイラル・セッション「新聞で何を学び、何を教えるか～伝えること、知ることの大切さ～」に参加しました。事前学習として、私たちは「NIE」とは何か確認しておきました。

「NIE（Newspaper In Education）」とは、新聞を教材として活用する取り組みのことです。補助教材として用いるのではなく、主教材として用いる点に特徴があります。

☆情報活用能力を育成するために、教育界と新聞界が協力して、新聞教材の開発と活用の研究・普及を目指して行っている取り組み。

☆「社説や投書などでいろいろな考えを知ることができる」といった新聞のもっている特性を生かしながら、情報化社会の進展への対応や活字離れといった教育課題に応えることを目指した取り組み。

（小原友行、髙木まさき、平石隆敏編著『はじめて学ぶ 学校教育と新聞活用』より）

02 なぜ今、新聞なのか？

今回のスパイラル・セッションでは、教育大学で新聞に関する講座が開かれる意義として、まず新聞と教育との関わりについてのお話がありました。

2020年から順次実施される新学習指導要領では、小・中・高すべての校種の総則において、新聞の活用を図ることが明記されました。情報活用能力の育成のために「信頼性が高い情報や整理されている情報」、「正確な読み取りが必要な情報」を授業で用いる必要性から、特に統計資料と新聞を活用することが示されています。

では、新聞とはどのようなメディアなのでしょうか。

武田真一先生は「新聞は記録・保存・情報伝達のためだけの媒体ではない」として次のことを新聞の役割に挙げていました。

①「喜怒哀楽」「人の〝生き死に〟」を共有するための基盤（プラットフォーム）

②共感・情報共有の土台を作る

③人や地域をつなぐ装置であり、命・人権・自由・暮らしを守る

また、武田先生は新聞で養う「見きわめ力」についても提言していました。

新聞は「伝える」ということに重点を置いているため、伝えたいことが分かりやすく見出しに集約されています。さらに、一つの記事にはいろいろな情報が含まれているため、新聞を読むことは要点を捉えたり、どこが大切なのか「急所」を見きわめたりすることにつながるとし、それが教育における「読むこと」「書くこと」の力になるとおっしゃっていました。

03 教育に新聞を活用する前に知っておきたいことは？

新聞を教育に活用するためには、新聞がどのように書かれているのか知っておく必要があります。

分かりやすく「伝える」ために、新聞記者は、様々なポイントに留意しながら記事を書いているといいます。武田先生は、実際に新聞記者が用いている『記者ハンドブック』(共同通信社)を紹介してくださいました。その本から、いくつかのポイントを挙げていきます。

●逆三角形と6要素

新聞の最も基本的なルールは、「大事なことを先に書くこと」。言い換えると、「主張と結論の先出し」です。記者は、大事なことを先に書き、その後に取材した人や場所の様子などの「説明的なこと」を書き、最後に補足の文章である「付けたしたいこと」を書いています。この構成によって、新聞記事は逆三角形になっています。

6要素とは5W1Hのことです。5W1Hのどれが重要かは個々のニュースによって異なります。また、どんな記事にも5W1Hが含まれているとは限りません。新聞記者には、読者に伝えるべき点やその優先度を判断し、理解しやすく書くことが求められているといいます。

●見出しとリード

見出しは、読者が最初に目にするところです。ニュースの看板でもあり、ダイジェストとなると言われています。忙しい読者ならば見出しだけ見れば済むように、必要な情報を盛り込んで書かれています。記事の重要性によって見出しの数は変わります。どこがニュースのポイントかを伝えられるようにキーワードを前に出す工夫が求められます。

リードとは、重要な記事の第一段落にニュースの概要を記述したものです。リードだけ読んでもニュースの内容が理解できるように工夫する必要があります。長さにも制約があり、1面トップクラスのニュースでも、20行以内が理想であると言われています。

ほかにも読者が分かりやすい記事になるように、新聞には書き方の工夫がたくさんほどこされています。新聞というメディアそのものについて扱う授業や、児童・生徒に新聞を作らせる授業の前に、教師が知っておきたい知識が『記者ハンドブック』に詰まっています。

04 新聞を活用することで身につく力とは？

新聞の活用の仕方や、新聞を活用すると身につく力についても、詳しいお話がありました。

次のような新聞活用の習慣を身につけると、確実に「伝える力・書く力」がつくということです。

①新聞を週に2、3回は開こう
②言葉と言い回しを拾い、筆記しよう
③社説やコラムを書き写してみよう
④新聞に意見を投書してみよう

上記の③については、どのような力がつくのかということに関して、社説の書き写しを勧めている林修の言葉を引用してお話しくださいました。

事実と筆者の価値判断が含まれている社説を、何が事実で、何が価値判断かを意識しながら「読みながら書き写すこと」を続けていけば、以下の力がつくとのことです。

●何が事実で、何が記者の価値判断かを考えることで、論理的な文章展開の仕方がつかめるし、事実と判断を混同しないようになる
●語彙が豊富になる
●漢字が覚えられる
●時事を知ることができる

何でも簡単にコピーできてしまう時代だからこそ、「読んで書いて」という基本的なことが大事なのです。武田先生は、「皆さん自身が新聞活用の習慣を身につけることが大切」とおっしゃっていました。

05 まとめ～スパイラル・セッションを通して～

今回のスパイラル・セッションでは、今まで何気なく読んでいた新聞というものの書かれ方の特徴を知ることができました。また、読む力や書く力を養うために、新聞がどれだけ役立つかということも知ることができました。

今回の学びをもとに、将来教員になった時、授業で新聞を最大限有効に活用できるように、これからも新聞と教育について考えていきたいと思います。

06 参考となる文献

●小原友行、髙木まさき、平石隆敏編著

『はじめて学ぶ 学校教育と新聞活用 ―考え方から実践方法までの基礎知識』

ミネルヴァ書房、2013、本体2,500円

教科書があるのにどうして新聞なの？新学習指導要領にも新聞活用が取り上げられたけれどどう活用すればいいの？そんなお悩みを持っている皆さんにはこの本がおすすめです。授業に新聞を活用した学習活動を取り入れることの基本的な考え方や、理論的な裏付け、授業実践など、学校教育と新聞活用についてたくさん学べる一冊となっています。

(2F閲覧室 375.1‖コ‖14)

●共同通信社編著

『記者ハンドブック』第13版

共同通信社、2016、本体1,900円

この本の目次を見れば、本物の新聞記者が何に気を付けて記事を書いているのかを概観することができます。「新聞漢字・仮名遣い」「書き方の基本」「用字用語集」「記事のフォーム」「資料編1」「資料編2」の章ごとにポイントや注意点が説明されています。中でも8～9ページの「記事の書き方」は必見です。新聞を取り入れた授業のための教材研究に是非！

(2F閲覧室 816.07‖キ‖2)

●城島徹

『新聞活用最前線』

清水書院、2013、本体1,500円

新聞活用って具体的に何をしたらいいの、と疑問に思っている方におすすめの本です。この本では、小学校編、中学校編、高校編などに分けられて、新聞活用の実践が紹介されています。写真や図なども充実していて、とても読みやすく、分かりやすい内容になっています！

(2F閲覧室 375.1‖シ‖35)

(文責:大学院修士課程 国語教育専修1年 古内秀明、菅井枝美郁、渡邊恭介)

先生に聞く!

国語教育講座 児玉忠先生

最後に、本学国語教育講座教授で、NIEの講演も多数担当されている児玉忠先生(写真右)から、新聞を読むことの価値や、新聞との付き合い方を助言していただきましたので、紹介します。

新聞を読むことにどんな価値があるのですか?

「価値」とは、何かと比べた時にその特性が浮かび上がってくるものなので、若い人たちにとって身近なスマホで見るネットとの関わりで考えてみます。ネットで得られる知識は、興味のあることに関連して数珠繋ぎになって得られていきます。新聞と比べると、その知識の探求の仕方というのは、狭くて深い知識の得られ方と言えます。

一方、新聞というのは、まずはぱらぱらと見出しを中心に見ていきますが、その隣のページには領域は同じでも関連性のない記事が載っています。つまり、知識を「深める」というよりは、「広げる」ことになりますよね。知識の獲得の仕方が、その人の興味や関心の方に狭く深く掘り下げるようなネットに対して、新聞はその日の日本人が知るべき常識という点で横へ横へと広がっていきます。言い方を変えれば、新聞を読んでいる人は一般常識があるけれど、ネットばかりやっている人は非常識。それをひっくり返して言うと、新聞しか読まない人の知識は「広くて浅い」。ネットを使っている人の知識は「狭くて深い」。だから、どっちが良いか悪いか、とは言えないのですが、ネットを中心に情報サーフィンをしていると、結局得られる知識のバランスが悪くなってしまう、と言えるのではないかと感じています。ネットを使うことが増えた結果として、みんな一人一人の個人の好みが孤立的で閉鎖的になり、日本人という共通の横のネットワークのつながり、常識のつながりが弱くなってしまったのです。これは問題として言えるのではないでしょうか。

若者の「新聞離れ」が進んでいると言われていますが、これから新聞とどのように付き合っていけば良いか、アドバイスをお願いします。

今の若い人たちは、受験や就職活動のために急に新聞を読むようになると思います。それは何のためかということを考えると、先にも言ったように、新聞には「そのとき日本人として知っておくべき常識」が書かれているからなのだと思います。ですから若い人たちが新聞を読まなくなると、こういう言語文化がなくなるかもしれないということに危機感を持って欲しいです。仮に紙の新聞がなくなっても、電子版のように、何か新聞のような言語文化をみんなが残したいな、と思ってくれると嬉しいですね。

個人的なことを言えば、私は新聞という言語文化が好きです。残っていて欲しい。例えば昔は、子どもの頃はテレビ欄を真っ先に見ましたが、テレビに番組表が出るようになってから、新聞の存在意義が一つ消えました。とは言え、まだまだ新聞は力を持っていると思うのは、例えば書評の欄です。それから読者参加の欄。ああいうふうに、言論がいきいきと行き交う場として、出会いの広場、言論の広場としての新聞、という言語文化は是非残したいです。また、新聞に掲載されたじっくり時間をかけて考え抜かれた論説や、丁寧に調べてまとめられたレポートなども、残ってもらいたいと思っています。私はそういう思いを持っているので、教育としてどうだとか、新聞は生き残れるかとか、そういう議論ではなく、新聞なるものが残れば良いな、と思います。

(文責:大学院修士課程 国語教育専修2年 遠藤優太)

第28回

My Favorite Books

学生の読書室

日本の現代児童文学は1959年に成立したと言われています。成立から60年を記念して、今回の「学生の読書室」では、現代児童文学出発期の物語や評論、および日本児童文学について知るために有益な研究書の中から、学生たちが選んだ本を紹介します。

私が選ぶこの一冊

現代児童文学の成立の年、1959年に初版が出版された作品

『コロボックル物語① だれも知らない小さな国』

佐藤さとる、講談社、1969年11月

初等教育教員養成課程　子ども文化コース1年　**鈴木 愛美**

小さい頃、僕が小山で見つけた秘密。それは昔から伝わるこぼしさまの姿。大人になった僕は、こぼしさまのために小さな国を作ろうとする。

僕が見た小山の美しさ、子どもの頃の遊びなど、現代の日本ではなかなか見ることのできない風景がこの本で多くみられる。また、普通は人に姿を見せないこぼしさまがなぜ僕には姿を見せたのか、僕の小山に対する思いの強さが文章の中に表れている。

現代の私たちの在り方について考えさせられる一冊。

私が選ぶこの一冊

同じく、初版が1959年の作品

『木かげの家の小人たち』

いぬいとみこ、福音館書店、1967年7月

初等教育教員養成課程　子ども文化コース1年　**鈴木 もも**

森山家の二階の小部屋には、小人の家族が住んでいる。森山ゆりの毎日の仕事は、その小人のもとにコップ一杯のミルクを運ぶこと。しかし戦争が始まり、ゆりは疎開することになる。小人たちも一緒に引っ越すが、戦況が悪くなるにつれてミルクを毎日運ぶのはだんだん難しくなっていき―。

著者のいぬいとみこは、戦時中は保育園に勤め、戦後は編集者として児童図書出版に関わりながら作家としても活躍した。現代児童文学を代表する作品。

私が選ぶこの一冊

現代児童文学成立に先立つ「童話伝統批判」論争を代表する評論

『現代児童文学論』

古田足日、くろしお出版、1959年9月

初等教育教員養成課程　子ども文化コース1年　**鈴木 保子**

本書には、現代児童文学の成立に先立って1950年代に行われた「童話伝統批判」の有名な論文が収録されています。批判の対象としては、童話作家の小川未明の作品が代表的です。童話と児童文学の違いや、童話の時代を経て現代児童文学が生まれた経緯についてなど、充実した内容です。

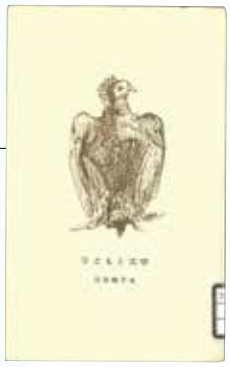
著者の古田は、この「童話伝統批判」の先駆者として名を残す人物であり、本書においても、本質をついた分析による批判が見事です。

私が選ぶこの一冊

1960年初版、現代児童文学の成立を物語る一冊

『子どもと文学』

石井桃子他、中央公論社、1960年4月



初等教育教員養成課程　子ども文化コース1年　**千葉 侑里子**

「子どもの文学」とは何か？

石井桃子ら6名によって出版された、日本の児童文学についての評論である。小川未明や浜田広介らの過去の作品について、子どもを重要視する視点から批評を述べ、同時に西洋との比較も行われている。また、著者の考える「子どものための文学」とはどういうものか、「子ども」と「文学」との関係性はどうあるべきかといったことについても、論じられている。

私が選ぶこの一冊

1960年初版のリアリズム児童文学

『赤毛のポチ』

山中恒、理論社（絶版）、1969年11月

初等教育教員養成課程　子ども文化コース1年　**髙橋 華純**

終戦から八年。赤毛の犬「ポチ」の飼い主である貧しい少女「カッコ」の物語。

つらく厳しい環境の中で強く生き抜く少女と、彼女を取り巻く人間模様をリアルに描いた作品です。

作者山中は、現実味のある描写によって、それまでの日本児童文学の特徴であったメルヘンや童話を否定し、現代児童文学の礎を築きました。

私が選ぶこの一冊

知っておくべき「児童文学」の話

『現代児童文学の語るもの』

宮川健郎、日本放送出版協会、1996年9月

初等教育教員養成課程　子ども文化コース1年　**高野 恭輔**

あなたは児童文学についてどれだけ知っていますか？

本書は「理想の子どもの近代児童文学」から「変革への意志を持つ現代児童文学」、そしてこの先向かう未来の児童文学について、重要な山場を作った作品や事象と共に明確に記しています。

著者の宮川は宮城教育大学に勤めたこともあり、本学にゆかりのある人物です。

私が選ぶこの一冊

新たな視点で読み解く児童文学の歴史

『〈現代児童文学〉をふりかえる』

佐藤宗子、久山社、1997年2月

初等教育教員養成課程　子ども文化コース1年　**羽川 綾**

1950年代、古田足日らを先駆けとして推し進められた“現代児童文学論”。彼らが批判した“近代童話”。そしてその主張が崩壊を始め、また新たに変化を遂げた児童文学の“今”まで。

現代児童文学の研究者である佐藤宗子がこれまでに様々な場で発表した文章を集め、「児童文学」の変遷を振り返った一冊。丁寧で偏りのない考察が魅力となっている。

原稿大募集

『こもれび：宮城教育大学附属図書館ニュース』は皆さんの投稿で成り立っています。特に「学生の読書室」は、学生の皆さんにお薦めの本を紹介してもらうコーナーです。読後の感想や想いをこの場で表現してみましょう。

下記の必要事項を記入の上、Eメールに文書を添付してお送りください。いつでも原稿募集中。ご投稿お待ちしています。

必要事項
- ☑コース・専攻、学年、お名前、連絡先
- ☑紹介したい本のタイトルとその著者名、出版社、ISBN
- ☑紹介文(400字程度)

提出方法
- ☑次のメールアドレスあてに提出してください。
  toshokan@staff.miyakyo-u.ac.jp

注意事項
- ☑こもれび次号は7月発行予定です。
- ☑原稿は、こもれび編集委員会で選定の上、掲載します。
- ☑採用された原稿は図書館ホームページにも掲載されます。

児童書紹介コーナー

子ムェの本棚

第11回

子ムェの本棚は、児童書に関する話題をお届けするコーナーです。今回は、2018年に実施した「拡大・点字教科書」展に関連し、視覚に障害のある児童・生徒に配慮された本の一つである「拡大教科書」「点字教科書」に焦点を当て、紹介します。

読みやすい教科書で学ぶための工夫

編集・執筆　特別支援教育講座（視覚障害教育コース）　特任准教授　武井　眞澄

■ はじめに

2018年11月1日から30日まで附属図書館において「拡大・点字教科書」展を開催しました。この展示会では、様々な見え方の状況にある児童や生徒が使っている「拡大教科書」や「点字教科書」の他、読みやすくするための支援具、点字を打つための道具等を紹介しました。折しも11月1日は「日本点字制定記念日」でもありました。今回の「子ムェの本棚」では、展示会の主な内容を簡潔にお伝えします。視覚に障害のある方が、本に親しみ、楽しんで学習するための工夫について考える手がかりとなれば幸いです。

1　教科書バリアフリー法について

平成20年に「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」が整備されました。これは「教科書バリアフリー法」とも呼ばれています。この法律の条文には、「教育の機会均等の趣旨にのっとり、障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の発行の促進を図るとともに、その使用の支援について必要な措置を講ずること等により、教科用特定図書等の普及の促進等を図り、もって障害その他の特性の有無にかかわらず児童及び生徒が十分な教育を受けることができる学校教育の推進に資することを目的とする」と記されています。その中の教科用特定図書は、本展示会で扱われた拡大教科書や点字教科書等をさします。そして、その普及のために、拡大教科書等を製作するボランティア団体等に対して教科書のデジタルデータが提供されるよう、教科書出版社に対して義務づけられることになりました。

参照元：文部科学省Webサイト
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/1378183.htm

2　拡大教科書とは？

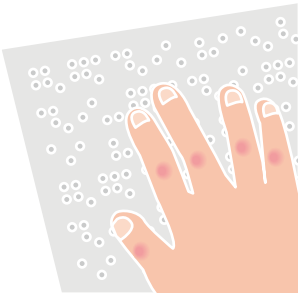
現在、「拡大教科書」として扱われているものには、弱視児童生徒のために検定済教科書の文字や図形を拡大等して複製し、図書として発行されているもの、ボランティア団体等の個人が発行しているもの、出版社等の企業や社会福祉法人で製作・発行しているものがあります。これまでは、地域のボランティア団体等によって、文字、レイアウト、色使い等について見やすさに配慮された複製本が、所定の手続きを経て作られてきました。現在は、出版社から様々なものが提供されるようになってきました。それらは版を単に拡大しただけでなく、字体、字の大きさ、文字間隔、行間隔、レイアウト等、様々な配慮がなされています。そのために拡大教科書はページ数が標準教科書より多くなってしまいます。標準教科書で学ぶ子どもたちと拡大教科書で学ぶ子どもたちとが一緒に学べるように、拡大教科書のページ番号には標準教科書のページ番号とその下位番号が添えられる等の工夫がなされているのも特徴の一つです。

標準教科書と拡大教科書の比較展示

武井眞澄特任准教授(中央)による拡大教科書のレクチャー

3 点字教科書とは?

標準教科書と点字教科書との最も大きな違いは、文字種が目で読む文字(墨字)と指先で触れて読む点字であることです。一般に点字教科書の1ページは1行あたり32マスの点字が22行打たれています。墨字に比べると文字量にして約1/4程度の文字量になります。また、点字は紙上に打たれた凸点が綺麗に打ち出されている必要があります。そのために紙と紙をぴったりと重ね合わすように綴じることができません。これらの理由から、本が厚くなってしまいます。多くの場合、1冊の教科書の厚みが3㎝から5㎝程度の厚さになり、1教科当たり3〜5冊の分冊になってしまいます。国語辞典を点字版にすると小さな書棚では収まりきらないほどの量になってしまいます。



また、標準教科書には図等が添えられていますが、点字教科書の場合は凸点で表現されている点図や薄いプラスティックシートを加工して作られる触図が添えられる等の工夫がなされています。とは言え、これらの触図に触れて、その内容を理解できるように導くことは容易なことではありません。そのためにより良い材料でどのような触図を製作し、どのように触察させるかという点でも様々な方々が研究に取り組まれてきました。現在、盲学校で使用されている教科書で、文部科学省の著作教科書として採択されているのは1種類だけですが、今後インクルーシブ教育が進む中で地域の学校で用いられている教科書に合わせて指導が行われることもあり、その対応も必要になるかもしれません。

点字教科書(左)と触る絵本(中央)

4 拡大・点字教科書展を見て

「拡大・点字教科書」展を見学した学生の皆さんから、展示会の感想や今後の学習に生かしたいことなどを寄稿してもらいました。

特別支援教育教員養成課程
視覚障害教育コース1年　中市　永遠

私は特別支援教育教員養成課程に所属していることもあり、障害のある方の視点で考えながら過ごすことが多くなりました。展示されていた拡大教科書も、見え方に困難のある子どもたちが歯がゆい思いをせずに、読みやすい条件のもとで学習が進められるために工夫されていたものでした。手にした教科書は文字のサイズ、配色、コントラスト等について様々な違いがありました。一口に「弱視」と言っても、「見えにくさ」の状態は様々なことから、様々な配慮のもとで教科書が編集されていました。改めて、障害のある方のそれぞれの見え方に適した、学習しやすい教科書で学べるように配慮することが大切であると思いました。特別支援教育教員を目指す学生であるかを問わず、障害のある方の気持ちを考え、その配慮方法について知ることができたことは、今後携わる現場での指導に生かせるように思いました。

また、今回の展示会では点字を打つための道具や触察教材等も展示され、直接触れることができたことは、多くの学生にとっても良い機会となったと思います。

特別支援教育教員養成課程
視覚障害教育コース1年　佐々木　健斗

展示されていた物の中にタブレット端末がありました。それには電子コンテンツとしての教科書を閲覧する「UDブラウザ」というアプリケーションがインストールされ、実際に閲覧してみました。UDという名称はUniversal Design の略で、様々な状況にある人が利用できるように設計されたものでした。機能として、①レイアウトの切り替え②拡大・読み上げ③ページジャンプ④しおり⑤辞書検索⑥書き込み・ラインマーカー等が組み込まれていました。通常の拡大読書器は単に拡大させたり、文字色と背景色を変えることは可能ですが、レイアウトを変えることはできません。しかし、これを使うと原本と同じレイアウトのまま拡大させることや本文だけを読みやすい文字サイズや書体で表示させることができました。

タブレット端末の様々な機能を使いこなすには多くの時間を要することと思いますが、様々な困難さのある子どもたちが、UDブラウザのような様々な方法で教科書を用いた学習が進められるように思いました。

特別支援教育教員養成課程
聴覚・言語障害教育コース3年　八巻　琴美

通常、ポスターは目で見て、情報を収集することを前提として製作されますが、私たちの主たる活動である情報保障の観点から、視覚障害の方に対する支援にも配慮したポスター製作を進めました。そこで、ポスターの視覚的デザインを損なわずに、透明のシートに点字を打ち、それをポスター表面に重ねる工夫をしました。しかし、その製作過程で、視覚障害の方の全てが点字を読めるとは限らず、習得途上の方もいることを本学の先生からお聞きしました。改めて、様々な形での情報保障を考え直さなければならないと思った瞬間でした。それと同時に、そのような方のために音声ペンという機器を紹介していただきました。特殊なコードを記したシールをポスター上に貼り、それをペン先で読み取らせると、予め録音された音声を出力できるようにする方法で、早速それを導入することにしました。

今回、「拡大・点字教科書展」に足を運んでみると、様々な教材があることを知りました。私たちが利用した音声ペンは、幼児用の絵本でも使用されていると聞き、見えにくさのある子どもたちも、音声を聞くことにより、もっと見たい、という前向きな気持ちを芽生えさせるように思いました。これまでは大学の授業でしか、視覚障害について勉強する機会がありませんでしたが、ポスター製作や今回の拡大・点字教科書展で実際の様々な教科書、教材、教具等に触れることができ、教員になった時に子どもたちの学習環境をどのように整えることが必要なのかを考える契機になりました。今後も、さらに積極的に特別支援教育全般について学んでいきたいと思いました。

※ 下の「PEPNet-Japanコンテスト　ポスター紹介」も参照。

■「拡大・点字教科書展」関連イベント

PEPNet-Japanコンテスト　ポスター紹介
日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）とは、全国の高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生の支援のために立ち上げられたネットワークです。本学は、実践事例コンテスト2018で入賞し、そのポスターを学生が紹介しました。

盲導犬レクチャー
「拡大・点字教科書」展のイベントとして、日本盲導犬協会の講師の方にお越しいただき、盲導犬についてお話しいただきました。

5 拡大教科書・点字教科書を使用して

拡大教科書・点字教科書を実際に使用している宮城県立視覚支援学校の生徒二名から、感想文をいただきました。

宮城県立視覚支援学校は、1903年5月、東六番丁日本キリスト教会内に折居松太郎によって盲人日曜学校（私設）が開設されたことを源流とし、その後、1914年4月「宮城県立盲唖学校」として創設されました。現在は、県内唯一の視覚障害教育学校として、視覚障害教育の専門性を維持・継承するとともに、時代の要請に応える教育を推進されています。

拡大教科書

宮城県立視覚支援学校　中学部1年　佐藤　茉奈

私は見えにくいため小学生の頃から、26ポイントの文字サイズの拡大教科書を使って勉強しています。また、まぶしさが苦手なため教室内は、カーテンを用いて明るさを調整しています。

視覚支援学校の中学部に入学してからも、拡大教科書を使って勉強に取り組んでいます。また、拡大読書器やルーペを使って学習する機会も増えてきました。拡大教科書の図や写真、地図帳などの資料を読み取る時には、このような補助具を使うことで、資料の読み取りや授業の内容を把握しやすくなりました。

また、タブレット端末で電子教科書（UDブラウザ）を使うようになり、グラフや図、教科書の文字などを自分の見やすい大きさに拡大して勉強することもあります。

これからも、拡大教科書や電子教科書、補助具を使いながら勉強を頑張っていきたいと思います。

点字教科書

宮城県立視覚支援学校　高等部普通科1年　熊谷　高汰

僕は、小学生の時に点字を覚えました。初めはなかなか読むことができず、一文字ずつ指を上下に動かしながらの拾い読みでした。でも、音読の練習を重ねることで点字教科書をすらすら読めるようになったときの嬉しかった思いは忘れることができません。英語の学習でも略点字を覚えて英語の読み書きも楽になったことを覚えています。点字教科書は、写真やイラストの代わりに点図で示されています。でも、その点図がわかりづらくなっていることがあります。そのような時には、先生が模型や手作り教材を使ってその内容を理解しやすいように指導してくれます。

視覚障害者のための点字教科書で晴眼の高校生と同じように学習することができます。これからも点字教科書の存在に感謝しながら学習に取り組んでいきたいと思います。

■読書支援具や点字の用具

拡大読書器
文字等を拡大させてモニターに表示させ、見たり書いたりするための機器です。

拡大鏡
文字等を拡大して見るためのルーペです。

パーキンスブレーラー
6点式点字タイプライターの一種です。

図書館からのお知らせ!

図書館 Library Information インフォメーション

さまざまなイベントを開催しました

附属図書館は、スパイラルセッションや教科書展など、さまざまなイベントを開催しています。2018年度には次のイベントを実施しました。図書館で実施してほしいイベントについて、学生の皆さんの要望をお待ちしています。

月　日	タイトル	講師など
4月19日	(スパイラルセッション第1回)案内ロボットの実演	大林要介さん(教職大学院1年)・長嶋春樹さん(学部4年)
6月5日	(スパイラルセッション第2回) 科学データを調べる・読む―「理科年表プレミアム」の使い方	高田淑子先生(理科教育講座)
6月13日	(スパイラルセッション第3回　学修サポーター企画)先輩直伝!レポート攻略法	磯野咲さん(教職大学院2年)
7月10日～8月10日	『赤い鳥』と教科書展	
7月10日	(『赤い鳥』と教科書展イベント)童謡コンサート	初等音楽コース・中等音楽教育専攻2年生の皆さん
8月10日	(『赤い鳥』と教科書展イベント) トークイベント『赤い鳥』と教育・児童文化	加藤理先生(文教大学) 大木葉子先生(仙台白百合女子大学) 中地文先生(国語教育講座)
8月2日、6日、10日	(『赤い鳥』と教科書展イベント)童謡アカペラ・ライブ	アカペラサークル「奏」の皆さん
11月1日～30日	拡大・点字教科書展	
11月13日	(拡大・点字教科書展イベント)ミニレクチャー	武井眞澄先生(特別支援教育講座)
11月28日	(拡大・点字教科書展イベント)盲導犬レクチャー	日本盲導犬協会
12月5日、19日	(スパイラルセッション第4回) 新聞で何を学び、何を教えるか―伝えること、知ることの大切さ	武田真一先生(河北新報社)
12月5日、7日	(スパイラルセッション第5回　学修サポーター企画) 教採合格体験談	佐藤仁紀さん(教職大学院2年) 鈴木菜穂さん(教職大学院2年)
12月14日	(スパイラルセッション第6回)クリスマスカード・ワークショップ	水谷好成先生(技術教育講座)・学生有志の皆さん
12月17日	(スパイラルセッション第7回)図書館クリスマスコンサート	器楽アンサンブルグループ「すずめ」の皆さん
1月8日、9日	(スパイラルセッション第8回　学修サポーター企画) 映画&アプリで気軽にEnglish―今年からオレは…! 『伝わる』話し方―プレゼンテーション上達への道	角田愛沙美さん(学部4年) 丸山広輝さん(学部4年) 藤倉宏丞さん(教職大学院1年)
1月30日	(スパイラルセッション第9回)セクシャル・ハラスメントをどう考えるか	川﨑惣一先生(社会科教育講座)

童謡コンサート

童謡アカペラ・ライブ

図書館クリスマスコンサート

編集後記

今号の特集記事では、河北新報社・武田真一先生のスパイラルセッション「新聞で何を学び、何を教えるか」の模様をお伝えしました。学生の皆さんがNIE (Newspaper in Education) の活動に関心を持つきっかけとなれば幸いです。宮城教育大学附属図書館の活動・運営、および本誌に関するご意見・ご要望がありましたら、図書館カウンターまたは下記の連絡先までお寄せください。

宮城教育大学附属図書館
〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149
TEL：022-214-3350
E-mail：toshokan@staff.miyakyo-u.ac.jp

こもれび No.134
【編集発行】
宮城教育大学附属図書館
運営委員会
附属図書館オフィシャルサイト
http://library.miyakyo-u.ac.jp/

このパンフレットは環境に配慮した「水なし印刷」により印刷しております。
環境にやさしい植物油インキ「VEGETABLE OIL INK」で印刷しております。